

3 今後の指導に向けて

【小学校国語】

- ① **漢字の読み書き** …漢字に関しては、これまでも取り組みの必要性が指摘されている。調査開始から、どちらかと言えば「読み」よりも「書き」に課題があったが、平成25年度、26年度は、「読み」「書き」共に課題を残している。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、漢字を「使っているかどうか」が大きな要素となっている状況も同様である。基礎的・基本的な知識・技能ではあるが、一部習得が不十分である。定着するためには反復練習とともに実際に使っていく事が不可欠である。朝学習の時間等を使った日常的・継続的な取り組みなどが求められる。辞書を積極的に活用して、語彙の拡充を図ると共に、文脈に合わせて正しい漢字を積極的に使っていく指導が必要である。また、宿題を出すなど、家庭と協力して学習習慣の確立も図っていく必要がある。
- ② **故事成語、ことわざ、慣用句等** …漢字の読み書きと同様に、これまでに取り組みの必要性が指摘されている。数多くの意味や使い方を理解し、自分の表現に用いることができるようにすることが重要である。そのためには国語辞典やことわざ辞典などを使いながらの指導が必要である。
- ③ **文や文章の構成** …言語事項における課題としてこれまでも指摘されていた。昨年度は「一文を二文に分けて書く」、本年度は「～たり、～たり」に直す設問であったが、文や文章の構成について、各学年ごとに、実際に書く場面を積極的に取り入れて、自分の言葉として取り組む必要がある。
- ④ **調べたことを議論したり、感じたことや考えたことを交流する** …調べた事やまとめたことについて議論する機会を積極的に設定し、司会の役割を果たしたり、参加者として立場や根拠を明確にして話し合いを進めたりする実践的な学習が必要である。また、感じたことや考えたことを交流する場面を積極的に設定し、共通点や相違点に着目して自分の考えを書くといった学習が必要である。
- ⑤ **目的や意図に応じて、必要な内容を書く** …課題を解決するために、情報を取り出し、整理し、それらに関係付けて記述したり、スピーチの構成や表現を工夫したり、目的に応じて必要な内容を適切に書く取り組みが必要である。その際には、理由や根拠をもとに説明したり、構成や表現の工夫をしたりしながら、相手に伝わる文章を実際に書いて表現する場面を大切にしていかなければならない。
- ⑥ **ローマ字** …平成21年度までは、ローマ字の読み、書きで課題を残していたが、昨年度・本年度は出題がなかった。ローマ字習得が3年生からになっており、コンピュータ使用機会の増加など必要性は高まっている。母音と子音を基礎とした規則性の理解を軸に、いっそうの定着化を促進し、積極的に使っていく必要がある。

【小学校算数】

- ① **四則計算** …四則計算に関しては概ね良好であるが、引き続き、一年生から着実な定着を重ねていきたい。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、実際に処理できているかどうか、細やかに指導していく必要がある。国語の漢字同様、定着に向けた授業や、朝学習の時間等を使った日常的・継続的な取り組みなどが求められる。また、宿題を出

すなど、家庭と協力して学習習慣の確立も図っていく必要がある。

- ② **割合・単位量あたりの大きさ** …割合や単位量あたりの大きさについては、これまでに組みの必要性が指摘されている。5年生時での確実な理解を図りたい。ここでは、比較量＝基準量×割合の関係や、どちらを単位量とするかなど、児童が理解しにくい内容が指摘されているため、指導の工夫とともに、少人数や個別に対応していく必要がある。
- ③ **筋道を立てて考える** …特にB問題では、情報を読み取ったり数値を取り出したりし、条件を把握したり解決の見通しをもったりして、筋道を立てて考えることが要求されている。問題解決へ向けて、数学的な便利さや簡潔さを理解しつつ、自ら考え、判断し、実行できる力を育む学習が必要とされている。
- ④ **理由や根拠をあげて説明する** …伸びが認められる設問があるが、求め方を記述したり、理由を記述したりと、説明を文章に書く問題には依然として課題がある。児童一人ひとりが、自分の課題・問題として、最も合理的な処理の仕方を選択し、自分の考えを表現し、伝え合い、交流した結果を自分に戻して再考するというサイクルを積極的に取り入れていく必要がある。

【中学校国語】

- ① **漢字** …漢字に関しては、小学校同様に、これまでも組みの必要性が指摘されている。平成25年度は「読み」については定着が見られていたが、本年度は、「読み」「書き」共に課題を残している。文脈の中で適切に使用したり漢字の組み立てに着目したりし、同じ漢字を用いた他の熟語を想起しながら理解を深めていく必要がある。設問ごとに、正答率の学校間の差が大きく、小学校同様、漢字を普段から「使っているかどうか」が大きな要素になっている。家庭学習も含めた日常的・継続的な取り組みが必要である。小学校同様、国語辞典や漢和辞典を積極的に活用して、自ら学び、豊かな言語を獲得できる指導の工夫が必要である。
- ② **伝統的な言語文化** …古典の学習はこれまでも課題として指摘されていた。比喻などの表現技法に着目しながら、文脈の中で意味を理解する必要がある。歴史的仮名遣いや文語のきまりについて、音読したり朗読したりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解するように指導することが引き続き必要である。
- ③ **根拠を明確にして自分の考えを書く** …文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことへの組みが必要である。また、自分の考えを書く際には、相手に効果的に伝わるようにすることが大切である。そのためには、自分の考えや意見を明らかにし、考えの根拠となる事実を明確に示したり具体例を加えたりして、説明を工夫する必要がある。また、自分の考えがより分かりやすく相手に伝わることを意識して書き、実際に交流する学習場면을重視する必要がある。

【中学校数学】

- ① **「数と式」領域** …本年度課題として挙げられたのは、小学校での既習事項のみであった。依然として、単に数式を処理するのではなく「意味理解」の力を問う設問が多い。引き続き、授業での組みに加え、十分理解できていない生徒への補充学習等、着実

な伸長を図りたい。

- ② **記述式問題** …本年度課題として挙げられたのは、2つの数量の関係を説明する設問のみである。依然として、全国的に記述式問題に対する課題として、「予想した事柄を数学的な表現を用いて説明すること（事実・事柄の説明）」「問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明すること（方法の説明）」「事柄が成り立つ理由を説明すること（理由の説明）」の3つが挙げられている。これらは、「思考力・判断力・表現力」にあたり、数学科の評価観点では「数学的な見方や考え方」に該当する。実生活における事象を数学的な解釈に基づいて考察できるように指導することが大切であり、生徒自らが事柄を予想することができるように指導することや、帰納したり類推したりして予想を立て、その予想を明確に表現できるように、引き続き指導することが大切である。

【全体として】

平成25年度に課題として挙げた各項目について、平成26年度では全体的に伸びが見られている。一方、依然として課題として指摘できるものもある。基本的には今後の指導の重点については、継続して取り組みをおこなっていく必要があると考えられる。

- ① **明確化・顕在化・行動化** …寒川町では、知育・徳育・体育の3つの側面から、調和のとれた人間づくりをめざしている。全国学力・学習状況調査の結果はその一部であり、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するための資料とするものである。「テストや調査のために授業をしているのではない」のはもちろんのことであるが、児童生徒の学習を充実させ、定着を図り、学力向上が人間形成においてプラスとなるように、授業を構成していかなければならない。しかしながら、漠然と取り組んでいくという段階ではなく、数値を参考にしながら、何にどのように取り組むのかを明確にし、それが見える形として表し、具体的に実際の動きをつくっていく必要があることには変わりがない。
- ② **魅力ある学校づくり** …本年度においても、小・中学校共に、設問ごとに学校間での差が広がっている状況にある。また、昨年度からの変動も各校において大きい状況にある。どの学校にも、課題となる設問を見いだすことができるが、学校独自の課題と言ってもよい。学校の傾向は、児童生徒・家庭・教師・環境等の総体としての傾向である。調査に該当している学年の特性や集団としての色合いが大きく影響していることも事実であろう。町内小中学校で共通して取り組めること、学校独自に取り組めることを精査し、教職員間の合意のもと、具体的に実際の動きをつくっていく必要がある。
- ③ **校内研究と一体化した取り組み** …国語の研究をしている学校は国語が、算数の研究をしている学校は算数が伸びている状況は昨年度指摘した。同様に、「仲間との関わり合いを通して、自らを育てる学習指導の工夫」「思いや考えを伝え合う力の育成を目指して」のテーマのもと、言語活動の充実を図っている学校では、思考力や表現力についての伸びが見られている。研究発表会を節目として、実践を重ね、成果をまとめることにより、確実に数値にもつながっている。学校をあげて組織的に研究をおこなうことが、授業力向上につながり、ひいては児童生徒の学力向上のみならず、教科に対する思い・自負心へもつながっていく。研究発表会の有無にかかわらず、授業力向上へ向けた研究

の充実が望まれる。

- ④ **授業づくりを核とした学校づくり** …学習規律がしっかりしている授業では、児童生徒が落ち着いて学習に取り組めるのは言うまでもない。学校においては、学習規律は、学校生活全体の規律と密接に関わっており、授業力向上は児童生徒の学力向上のみならず、児童生徒の生活そのものを変えていくことにつながっていく。また、授業展開についても、始まりと終わり、めあてや課題の提示とまとめや振り返り活動、起承転結といった構成を重視し、児童生徒が意見や考えをもち、それを交流することができる授業を構築する、いわば「授業をデザインする」意識にたった実践が求められる。
- ⑤ **漢字に対する取り組み** …町内小中学校共通の課題である。定着に向けた授業の展開や、教材の工夫、細やかな指導等、検討する必要がある。通常の授業中のみならず、朝自習の時間を使ったり、宿題を出して家庭と協力して学習習慣の確立を図ったり、日常的・継続的に取り組んでいく必要がある。また、実際に本を読む機会を増やしていったり、漢字を使いながら文章を書く機会を積極的に増やしていき、普段から漢字の読み書きをしていきたい。
- ⑥ **数と計算に対する取り組み** …四則計算については、本年度は成果と効果が認められている。今後も各習得学年において、着実な定着を重ねていきたい。漢字と同様、日常的・継続的な取り組みが必要である。丁寧な指導を行うと共に、少人数による指導、個別指導、補充学習等を行い、確実に定着を図る必要がある。
- ⑦ **宿題や課題の組織的な検討** …日常的な宿題や課題の提示については、成果と効果が認められてきている。家庭での学習を習慣化・定着化させることが今後も必要である。授業の内容と家庭学習の宿題や課題のつながり、学校全体としての予習・復習、課題の設定等、担任や教科に任せるのではなく、組織的な検討が必要である。
- ⑧ **真正な「学び」の繰り返し** …現在の教育現場において、「決められた物事をバケツの中に注ぎ込むイメージ」や「線路の上をゴール目指してひた走るイメージ」「悪いところをカルテを作って診断し治療するイメージ」等、「知識注入型」や「言っておしまい」「教えたはず」といった授業観・教育観・枠組みからはすでに離脱しているのは昨年度記述したとおりである。「知識基盤社会」である21世紀を生きる児童生徒にとって、「生きる力」の具現化が重要になっている。これから必要となってくることは、自分で考え、意志決定をすること、つまり、一人ひとりが自分の意見を言い、皆で合意し納得しながら社会を運営していくことである。よって、「自分の意見をはっきり述べる」ことができる子どもを学校で育てることは、よりよい未来を創るために必要なことであろう。具体的には、「自分で考える」→「表明する交流する」→「合意形成や問題解決を図る」→「自分の考えや視座を決め直す」といった、子どもが考えることを中心に据えた、真正な「学び」を繰り返していくことが、「読み取り捉える」ことにつながり、「理由や根拠を挙げながら筋道立てて」、「話す・書く・説明する」につながっていくと考える。

町内でも、「伝え合う」や「すじみちをたてて考える」等、思考力・判断力・表現力に直結している研究が見られている。国語、算数・数学に限定せず、各教科内外において、児童生徒が自ら考えることができる授業実践が求められている。